

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数：4 単位
 対象学年組：第3学年 1組～7組
 使用教科書：（新編論理国語/大修館書店）
 教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を重視してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようになる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当数
		話	聞	書	読					
【論理国語α】 1 論理と出会う ○知の登山、知の水路 ○「論理的な人」とはどういう人か ・「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。 ・これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて考える。 ・「論理」についての筆者の考えを読み取る。 ・筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味をもつ。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする	○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末 ・意味から学ぶ常用漢字	○	○	○	【知識・技能】 ・効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・学ぶことについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。	○	○	○	12	
【論理国語α】 2 具体と抽象 ○例題 突然変異と進化の関係 ○ウサギの耳はなぜ長い？ ・具体例の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。	○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）	○	○	○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・共進化についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、具体と抽象の関係をとりえようとしている。	○	○	○	16	
定期考査						○	○		1	
1学期 【論理国語α】 3 対比をとらえる ○対話の精神 ○デジタル地図から見える世界 ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。 ・文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。	○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）	○	○	○	【知識・技能】 ・対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、対比関係や論理展開をとらえる助けとしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、対比の関係を注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・コミュニケーションについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、対比の関係をとりえようとしている。	○	○	○	14	
【論理国語α】 4 主張をつかむ ○人工の自然 ○「考える葦」であり続ける ・筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。 5 論理的に書く—小論文① 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。	○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）	○	○	○	【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。〔B(1)ア〕 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・デジタル社会についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係をとりえようとしている。	○	○	○	16	
定期考査						○	○		1	

2 学 期	<p>【論理国語α】 7 比べて読む ○紙の本はなくなるらない ○情報化と紙の本のゆくえ ・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。</p>	<p>○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の考えを読み取るうとしている。</p>	○	○	○	14
	<p>【論理国語α】 1 自己を見つめて ○補助線を引きながら考える ○フォーカス 自分を客観的に見つめよう ・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。</p>	<p>○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 ・自らの考えを論証するために必要な語句の働きを理解し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが重要を把握している。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の示す現代社会の問題を自分事としてとらえ、筆者の主張を主体的に読み取ろうとするとともに、実生活でのさまざまな問いに対して補助線を引いて積極的に考えようとしている。</p>	○	○	○	16
	定期考査						○	○		1
	<p>【論理国語α】 2 思考を深める ○和の思想、間の文化 ○ミロのヴィーナス ・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。 ・論の展開のしかたや具体例の役割について考える。 3 社会に向かって ○志望理由、自己推薦書を書こう ・必要な情報を集め、それらを適切に結びつけて、相手の印象に残る志望理由書を書く。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。</p>	<p>○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・日本の伝統的な考え方についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、筆者の主張を支える根拠・論拠をとらえようとしている。</p>	○	○	○	16
<p>【論理国語α】 6 現代を考える ○「である」ことと「する」こと ・筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、筆者の主張を的確につかむ。 5 問いを深めて書く—小論文② ・テーマをもとに問いを立てて小論文を書く。 ・抽象的なテーマから問いを立てる方法を身につける。 【論理国語β】 ・共通テスト対策をする。</p>	<p>○教材 ・教科書 新編論理国語（大修館書店） ・授業プリント ・一人1台端末（現代文単語テスト） ・共通テスト国語対策問題集（桐原書店） ・必携国語（第一学習社）</p>	○	○	○	<p>【知識・技能】 ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の考えを読み取るうとしている。</p>	○	○	○	16	
定期考査						○	○		1	

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科

地理歴史科 科目 日本史探究

教科： 地理歴史科 科目： 日本史探究

単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（ 日本史探究『高校日本史』 山川出版社 ）

教科 地理歴史科 の目標：

- 【知識及び技能】 日本の歴史に関して、調査や諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 文化の始まり ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成立していることに気づく。 ③農耕社会の成立 ④大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ⑤集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ⑥原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。	指導事項 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 ・教材 ・教科書、図表 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 考古資料をもとに、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、中国文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 日本列島内外の歴史書・金石文、考古学資料などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成についての考察を通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化を明らかにしようとしている。	○	○	○	32
	1 古墳文化の展開 ①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 定期考査			○	○	
2 飛鳥の朝廷 ①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。 1 律令国家への道 ①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 2 平城京の時代 ①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。	指導事項 第2章 古墳とヤマト政権 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 4 律令国家の変容 ・教材 ・教科書・図表 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 推古朝の政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 隋・唐など中国王朝との関係に着目して、東アジア情勢との関係、律令体制の成立過程などを理解している。 大宝律令・養老律令の整備について、遣唐使派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 【思考・判断・表現】 大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 律令成立期の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 盛唐文化の受容を踏まえ、国史など編纂・仏教美術の展開、鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。	○	○	○	31
	定期考査			○	○	

2 学 期	<p>摂関政治</p> <p>①藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。</p> <p>②日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となつたことをとらえる。</p> <p>2 国風文化</p> <p>①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。</p> <p>②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p> <p>①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。</p> <p>②地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとつて考察する。</p> <p>定期考査</p>	<p>指導事項</p> <p>第4章 貴族政治の展開</p> <p>1 摂関政治</p> <p>2 国風文化</p> <p>3 地方政治の展開と武士</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>藤原北家の権力掌握過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。</p> <p>大陸文化の定着を前提として、平安時代に日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>国際関係の変化を踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達など、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>文献資料を活用して、国司支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、表現している。</p>	○	○	○	32
	定期考査			○	○		1
	<p>1 院政の始まり</p> <p>①院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。</p> <p>②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。</p>	<p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>1 院政の始まり</p> <p>2 院政と平氏政権</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>藤原北家の権力掌握過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。</p> <p>大陸文化の定着を前提として、平安時代に日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>国際関係の変化を踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達など、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>文献資料を活用して、国司支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、表現している。</p>				
	<p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。</p> <p>2 武士の社会</p> <p>①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</p> <p>②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p> <p>3 鎌倉文化</p> <p>①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>②伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進化した背景を考察する。</p> <p>4 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意味を考察する。</p> <p>定期考査</p>	<p>指導事項</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>諸資料を読み取り、鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。</p> <p>承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から情報を読み取り、理解している。</p> <p>宋・元朝・ヨーロッパとの交流に着目して、蒙古襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。</p> <p>公武関係の変化やヨーロッパとの交流に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料をもとに、根拠を明確にして表現している。</p> <p>公武の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。</p> <p>鎌倉時代の産業の発展や商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発展とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	32
	定期考査			○	○		1
	<p>1 室町幕府の成立</p> <p>鎌倉幕府の滅亡や建武の新政、新政</p>	<p>指導事項</p> <p>第7章 武家政権の成立</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と室町やアヤマの文化の形成などについて</p>				

3 学 期	<p>に対する武士や民衆の反発について考察する。</p> <p>2 下剋上の社会</p> <p>諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。</p> <p>3 室町文化</p> <p>新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、さまざまな文化財をもとに時代的背景を踏まえて考察する。</p> <p>4 戦国の動乱</p> <p>応仁の乱以降、地域権力として成長した戦国大名や、各地で発展した都市と、産業や流通の成長や、自治的に都市を運営した人びとの活動について、諸地域の地理的条件などと関連づけて考察する。</p>	<p>1 室町幕府の成立</p> <p>2 下剋上の社会</p> <p>3 室町文化</p> <p>4 戦国の動乱</p> <p>第8章 近世の幕開け</p> <p>1 天下人の登場</p> <p>2 豊臣政権と桃山文化</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>資料から情報を収集して理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>一揆が形成され広まった背景や一揆の構造について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを踏まえ多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現しようとしている。</p>	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
						合計	140

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用）教科 地理歴史科 科目 世界史探究

教科：地理歴史科 科目：世界史探究 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 1組～7組

使用教科書：（世界史探究『高校世界史』山川出版社）

教科 地理歴史科 の目標：

- 【知識及び技能】現代世界の地域的特色と歴史に関して、調査や諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、地理的条項や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	A 単元 ・オリエント文明、ギリシア文明、古代ローマがそれぞれどのように関係して興ったのか、それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	第I部第1章・4章 ・「オリエント」文明 ・「ギリシア世界」 ・「ローマと地中海世界」	【知識・技能】 オリエント文明からヨーロッパの古代文明について、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかを考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明の内容に対して、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	B 単元 ・インダス文明、中国文明の興りについて理解する。また、秦・漢帝国の国家体制について理解する。	第I部第1章 ・「南アジアの古代文明」 ・「中国の古代文明」 ・「秦・漢帝国」	【知識・技能】 インダス文明、中国文明が形成されていく過程を、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 インダス文明や中国の古代文明、秦・漢帝国について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明の内容に対して、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	C 単元 ・中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて理解する。また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて理解する。	第I部第2章 ・「中国の分裂」 ・「東アジア文化圏の形成」 ・「宋と東アジア諸地域の自立化」	【知識・技能】 中国の分裂・隋唐帝国にはじまる東アジアの国際秩序について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 中国の分裂・隋唐帝国について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国と周辺地域の関係性について、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	D 単元 ・西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びつたのかについて理解する。	第I部第5章 ・「ヨーロッパ世界の形成」 ・「西ヨーロッパ世界の変容」 ・「東ヨーロッパ世界」	【知識・技能】 西ヨーロッパ封建社会の成立や東ヨーロッパ社会の動向について、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 東ヨーロッパの社会やしくみについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 東ヨーロッパ世界の成立と変容が現代社会にどのように関係しているか追究しようとする。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
2 学期	A 単元 ・モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて理解する。 ・ヨーロッパ人の海洋進出をきっかけに世界が大きく変化していくことを理解する。	第II部第8章 ・「モンゴルの大帝国」 ・「アジア交易世界の興隆」 ・「ヨーロッパの海洋進出」	【知識・技能】 アジア海域での交易の興隆を基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの海洋進出を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 アジア諸地域の交易とヨーロッパの海洋進出や諸地域相互のつながりなどを考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 アジアとヨーロッパのつながる過程について、見通しをもって学習に取り組み、追究しようとしている。	○	○	○	16
	B 単元 ・清朝が成立した長期政権について理解する。 ・ルネサンスにはじまる近世の主権国家はどのような特徴をもっていたかについて理解する。	第II部第9章・10章 ・「清代の中国と隣接諸地域」 ・「ルネサンス」 ・「主権国家体制の成立」	【知識・技能】 清の統治や対外関係、近世の主権国家の成立について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 清朝やヨーロッパ主権国家が周辺地域にあたえた影響について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 清朝や主権国家の成立について、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	C 単元 ・イギリスで産業革命がはじまった原因について理解する。 ・産業革命と環大西洋革命について概念的に理解する。	第II部第11章・12章 ・「産業革命」 ・「アメリカ合衆国の独立と発展」 ・「フランス革命」 ・「ウィーン体制」	【知識・技能】 産業革命と環大西洋革命について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命と環大西洋革命について、主題を設定して考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深めている。	○	○	○	16
D 単元 ・欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。 ・大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか理解する。	第II部第12章・13章 ・「列強体制の動揺とヨーロッパ再編成」 ・「第一次世界大戦」 ・「ヴェルサイユ体制下の欧米諸国」	【知識・技能】 列強の覇権争いや第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を諸資料から読み取り理解している。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦後の国際秩序のあり方について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容の内容に対して、見通しをもって学習に取り組んでいる。	○	○	○	16	
定期考査			○	○		1	
3 学期	A 単元 ・世界恐慌が国際協定制にどのような打撃を与えたのかについて理解する。 ・ヨーロッパではじまった戦争がどのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて理解する。	第II部第17章 ・「世界恐慌」 ・「第二次世界大戦」	【知識・技能】 世界恐慌から第二次世界大戦への流れについて、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 国際協定制の動揺によって再び世界大戦へと向かうことについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 国際協定制の動揺から第二次世界大戦についての自らの学習を振り返り、学びを深めている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
						合計	140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目（必選）地理

教科：地理歴史 科目：（必選）地理 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 ①組～②組

使用教科書：（高等学校 新地理総合（帝国書院））

- 教科 地理歴史 の目標：
- 【知識及び技能】 世界および日本の諸地域を理解するのに必要な基礎的知識・技能を修得する。
 - 【思考力、判断力、表現力等】 修得した知識・技能を活用して、諸事象を多角的に考察する。
 - 【学びに向かう力、人間性等】 作業やグループ学習などに積極的に参加する。他国や他地域の事情を理解する。

科目（必選）地理	の目標：
【知識及び技能】	世界および日本の諸地域を理解するのに必要な基礎的知識・技能を修得する。
【思考力、判断力、表現力等】	修得した知識・技能を活用して、諸事象を多角的に考察する。
【学びに向かう力、人間性等】	作業やグループ学習などに積極的に参加する。他国や他地域の事情を理解する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学期	地球上の位置と時差 ・地球上の位置と私たちの生活 ・時差と私たちの生活 地図の役割と種類 ・地球儀と地図 ・地理情報システムの活用 現代社会の国家と領域 ・現代世界の国家 ・日本の位置や領域	・地球儀や世界地図を活用して、地球上の任意の位置を緯度・経度によって示す。 ・時差について考え、計算できるようにする。 ・図法については端末を活用して調べる。 ・世界の国家や国境について理解する。 ・日本の領域についての特徴を理解する。	【知識・技能】 緯度経度の見方や時差の計算手順を修得する。 さまざまな図法の特徴を理解する。 国境の形態や日本の領域の特徴について理解する。 【思考・判断・表現】 緯度経度や時差が生活に与える影響や、さまざまな図法の特徴に合わせた利用法を考察する。 世界の国境をめぐる問題や日本が関わる領土問題について客観的に考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 時差の計算に積極的に取り組む。	○	○	○	16
	世界の地形と人々の生活 ・大地形と人々の生活 ・変動帯と人々の生活 ・安定地域と人々の生活 ・河川がつくる地形と人々の生活 ・海岸の地形と人々の生活 ・氷河地形・乾燥地形・カルスト地形と人々の生活	・プレートテクトニクスについて理解する。 ・世界の陸地が、安定陸塊・古期造山帯・新期造山帯からなり、それぞれの特徴を理解する。 ・さまざまな小地形の特徴を理解する。 ・地形図から情報を読み取る技術を養う。	【知識・技能】 それぞれの大地形や小地形を比較する。 【思考・判断・表現】 日本の自然災害や防災について考察する。 それぞれの地形と生活との関わりを考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 考察したことを、身近な問題としてとらえる。 地形図の読み取りや新旧地形図の比較など、地理情報を積極的に活用する。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
2 学期	世界の気候と人々の生活 ・気温・降水と人々の生活 ・大気循環と人々の生活 ・世界の植生と気候区分 ・熱帯の生活 ・乾燥帯の生活 ・温帯の生活 ・亜寒帯・寒帯の生活	・世界の気候について、大気の大循環を踏まえ、熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯の分布を知る。 ・ケッペンの気候区分方法について理解する。 ・熱帯、乾燥帯、温帯、亜寒帯、寒帯について、それぞれの特徴を理解する。	【知識・技能】 気候表・雨温図・ハイサーグラフなどから気候の特徴を読み取る。 それぞれの気候の特徴を、植生・土壌・農業などで比較する。 【思考・判断・表現】 気候と人々の生活との関わりを考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 グラフや統計を積極的に活用する。	○	○	○	16
	経済成長による人々の生活の変化 ー東アジアー モンスーンの影響を受ける地域での生活 ー東南アジアー ヒンドゥー教と人々の生活の関わり ーインドー イスラームと人々の生活の関わり ー中央アジア・西アジア・北アフリカー 植民地支配の歴史と人々の生活の関わり ーサハラ以南アフリカー 地域統合が人々の生活や産業に与える影響 ーヨーロッパー	世界の諸地域の生活・文化について、日本の生活・文化との共通性や異質性に着目しながら、自然環境や宗教や民族とともに、産業面からもその特色を知る。	【知識・技能】 諸地域の生活の特徴を比較する。 【思考・判断・表現】 世界の諸地域の生活を多角的に考察する。 日本の生活・文化との共通性や異質性に着目しながら考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 主題図やグラフ・統計を積極的に活用する。	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
3 学期	産業力が世界の生活文化に与える影響 ーアメリカ合衆国ー 移民の歴史と人々の生活の関わり ーラテンアメリカー 乾燥した大陸と太平洋の島々での生活 ーオセアニアー	世界の諸地域の生活・文化について、日本の生活・文化との共通性や異質性に着目しながら、自然環境や宗教や民族とともに、産業面からもその特色を知る。	【知識・技能】 諸地域の生活の特徴を比較する。 【思考・判断・表現】 世界の諸地域の生活を多角的に考察する。 日本の生活・文化との共通性や異質性に着目しながら考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 主題図やグラフ・統計を積極的に活用する。	○	○	○	6

年間授業計画

高等学校 令和7年度(3学年用) 教科

地理歴史科 科目 日本史

教科: 地理歴史科 科目: 日本史 単位数: 2 単位

対象学年組: 第3学年 1組～7組

使用教科書: (日本史探究『高校日本史』山川出版社)

教科 地理歴史科 の目標:

- 【知識及び技能】 日本の歴史に関して、調査や諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在のつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 文化の始まり ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②打製石器・磨製石器・縄文土器の発掘、竪穴住居の状況など考古学の成果によって教科書の叙述が成立していることに気づく。 2 農耕社会の成立 ①大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ②集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。 ③原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問いを表現する。 1 古墳文化の展開 ①地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ②ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ③古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解す 確認照テスト	指導事項 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 ・教材 ・教科書・図表 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 考古資料をもとに、旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 小国の形成から耶馬台園などの小国の連合について、中国文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 日本列島内外の歴史書・金石文、考古学資料などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成についての考察を通じて、旧石器文化や縄文文化の特色を明らかにしようとしている。 日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化を明らかにしようとしている。	○	○	○	8	
	2 飛鳥の朝廷 ①ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 ②飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響がみられることを理解する。 1 律令国家への道 ①律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ②律令にもとづく国内統治体制について理解する。 2 平城京の時代 ①律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多面的・多面的にとらえて考察する。 ②平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。 定期考査	指導事項 第2章 古墳とヤマト政権 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 4 律令国家の変容 ・教材 ・教科書・図表 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 推古朝の政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 隋・唐など中国王朝との関係に着目して、東アジア情勢との関係、律令体制の成立過程などを理解している。 大宝律令・養老律令の整備について、遣唐使派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 【思考・判断・表現】 大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 律令成立期の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 盛唐文化の受容を踏まえ、国史など編纂・仏教美術の展開、鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。	○	○	○	13
	2 国風文化 ①大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ②摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 3 地方政治の展開と武士 ①律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ②地方の反乱やその鎮圧など、武士確認テスト	指導事項 第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 ・教科書・図表 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 藤原北家の権力掌握過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 大陸文化の定着を前提として、平安時代に日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。 【思考・判断・表現】 摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 国際関係の変化を踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達など、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 文献資料を活用して、国可支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、表現している。	○	○	○	15
1 院政の始まり ①院政前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ②外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 2 院政と平氏政権 ①政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 定期考査	第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 ・教材 ・教科書・図表 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 藤原北家の権力掌握過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 大陸文化の定着を前提として、平安時代に日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。 【思考・判断・表現】 摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 国際関係の変化を踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達など、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 文献資料を活用して、国可支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、表現している。	○	○	○	15	
定期考査			○	○		1	

3 学 期	<p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>①鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。</p> <p>②鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。</p> <p>2 武士の社会</p> <p>①承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。</p> <p>②武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>①モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。</p> <p>②非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>①庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。</p> <p>②伝統的な公家文化の世界で、有職定期考査</p>	<p>指導事項</p> <p>第6章 武家政権の成立</p> <p>1 鎌倉幕府の成立</p> <p>2 武士の社会</p> <p>3 モンゴル襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>・教材</p> <p>・教科書・図表</p> <p>・一人1台端末の活用</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>諸資料を読み取り、鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。</p> <p>承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から情報を読み取り、理解している。</p> <p>宋・元朝・ユーラシアとの交流に着目して、蒙古襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。</p> <p>公武関係の変化やユーラシアとの交流に着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料をもとに、根拠を明確にして表現している。</p> <p>公武の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。</p> <p>鎌倉時代の産業の発展や商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発展とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p>	○	○	○	6
				○	○		1
							合計
						70	

年間授業計画

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科

地理歴史科 科目 世界史

教科：地理歴史科

科目：世界史

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

使用教科書：（世界史探究『高校世界史』 山川出版社）

教科 地理歴史科

の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と歴史に関して、調査や諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明することができる。

【学びに向かう力、人間性等】我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 ・オリエント文明、ギリシア文明、古代ローマがそれぞれどのように関係して興ったのか、それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	第I部第1章・4章 ・「オリエント」文明 ・「ギリシア世界」 ・「ローマと地中海世界」	【知識・技能】 オリエント文明からヨーロッパの古代文明について、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかを考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明の内容に対して、見通しをもって学習に取り組む、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	8
	B 単元 ・中国文明の興りについて理解する。また、秦・漢帝国の国家体制について理解する。	第I部第1章 ・「中国の古代文明」 ・「秦・漢帝国」	【知識・技能】 中国文明が形成されていく過程を、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 中国古代文明、秦・漢帝国について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明の内容に対して、見通しをもって学習に取り組む、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	8
	C 単元 ・漢王朝の滅亡後、どのようにして中国が分裂したのか理解する。また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて理解する。	第I部第2章 ・「中国の分裂」 ・「宋と東アジア諸地域の自立化」	【知識・技能】 中国の分裂、隋唐帝国にはじまる東アジアの国際秩序について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 中国の分裂、隋唐帝国について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国や周辺地域の関係性について、見通しをもって学習に取り組む、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	8
	D 単元 ・西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びついていたのかについて理解する。	第I部第5章 ・「ヨーロッパ世界の形成と変容」 ・「東ヨーロッパ世界」	【知識・技能】 西ヨーロッパ封建社会の成立や東ヨーロッパ社会の動向について、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 東西ヨーロッパの社会やしくみについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 東西ヨーロッパ世界の成立と変容が現代社会にどのように関係しているか追究しようとする。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
2 学 期	A 単元 ・モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて理解する。 ・ヨーロッパ人の海洋進出をきっかけに世界が大きく変化していくことを理解する。	第II部第8章 ・「モンゴルの大帝国」 ・「アジア交易世界の興隆」 ・「ヨーロッパの海洋進出」	【知識・技能】 アジア海域での交易の興隆を基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの海洋進出を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 アジア諸地域の交易とヨーロッパの海洋進出や諸地域相互のつながりなどを考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 アジアとヨーロッパがつながる過程について、見通しをもって学習に取り組む、追究しようとしている。	○	○	○	8
	B 単元 ・清朝が成立した長期政権について理解する。 ・ルネサンスにはじまる近世の主権国家はどのような特徴をもっていたかについて理解する。	第II部第9章・10章 ・「清代の中国と隣接諸地域」 ・「ルネサンス」 ・「主権国家体制の成立」	【知識・技能】 清の統治や対外関係、近世の主権国家の成立について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 清朝やヨーロッパ主権国家が周辺地域にあえた影響について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 清朝や主権国家の成立について、見通しをもって学習に取り組む、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	8
	C 単元 ・イギリスで産業革命がはじまった原因について理解する。 ・産業革命と環大西洋革命について概念的に理解する。	第II部第11章・12章 ・「産業革命」 ・「アメリカ合衆国の独立」 ・「フランス革命」	【知識・技能】 産業革命と環大西洋革命について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命と環大西洋革命について、主題を設定して考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深めている。	○	○	○	8
	D 単元 ・欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。 ・大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか理解する。	第II部第12章・13章 ・「列強体制の動揺とヨーロッパ再編成」 ・「第一次世界大戦」 ・「ヴェルサイユ体制下の欧米諸国」	【知識・技能】 列強の覇権争いや第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を諸資料から読み取り理解している。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦後の国際秩序のあり方について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容の内容に対して、見通しをもって学習に取り組んでいる。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和7年度 (3学年用) 教科 理科 科目 化学

教科: 理科 科目: 化学 単位数: 4 単位

対象学年組: 第 3 学年 共通選択

使用教科書: (数研出版 新編 化学)

教科 理科 の目標:

- 【知識及び技能】科学が解明してきたことを理解し、その方法や意味を学ぶ。
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的・科学的思考の仕方を習得すると共に人に伝える能力も高める。
- 【学びに向かう力、人間性等】本質を探究していく体験から主体的に学ぶ姿勢を育む。

科目 化学 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物質の成り立ちやその変化について、基本的・発展的事項を学ぶ。観察・実験などに関する技能を身に付ける。	知識、技能を活用して、身の回りの科学的現象をどのように評価、理解し、応用できるかを考える。観察・実験の実施とレポートの作成、発表などを通して科学的に探究し、表現する力を養う。	主体的な学習を通してみずから課題を発見し、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数			
1 学期	第1章 固体の構造 単格格子について理解する。 原子半径、充填率や密度の求め方を学ぶ。 水素結合について理解する。	・教科書、自作プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 単格格子の種類と特徴を整理できている。 気体の性質に関する法則を整理できている 溶解度の意味と、温度との関わりを理解している。 各種の方程式や法則を説明できる 【思考・判断・表現】 原子半径などを算出できる。 各種の方程式や法則により異なる条件下での物理量を求めることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習や質疑に積極的に取り組む。 課題やレポート作成に積極的に取り組む。	○	○	○	18			
	第2章 物質の状態変化 気液平衡の原理について理解する。			○	○					
	第3章 気体 ボイルシャルルの法則、気体の状態方程式、分圧の法則を学ぶ。			○	○					
	第4章 溶液 固体、気体の溶解度を理解し、希薄溶液の性質を学ぶ。 定期考査			○	○	1				
1 学期	第1章 化学反応とエネルギー エネルギーの出入りをエンタルピー変化として整理する	・教科書、自作プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 エネルギーの出入りをエンタルピー変化として理解する。 ヘスの法則を理解する。 電池の仕組みとダニエル電池について理解する。 反応速度の定義と化学平衡の考え方を理解する。 【思考・判断・表現】 ヘスの法則を利用してエンタルピー変化を求めることができる。 電池の反応を反応式で表し、量的関係を計算できる。 反応速度を求め、ヘスの法則から平衡移動を判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】	○	○	○	22			
	第2章 電池と電気分解 各種の現象を酸化還元反応として理解する。			○	○					
	第3章 化学反応の速さとしくみ 反応速度の表し方と反応条件との関連を学ぶ			○	○					
	第4章 化学平衡 平衡状態について理解し、平衡移動の原理を学ぶ。 定期考査			○	○	1				
2 学期	第1章 非金属元素 周期表に基づいて、元素の分類や周期性について理解する。 単体、化合物の性質を学ぶ	・教科書、自作プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 単体、化合物の性質を理解する。 【思考・判断・表現】 製法や性質を反応式で表すことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習や質疑に積極的に取り組む。 課題やレポート作成に積極的に取り組む。	○	○	○	28			
	第2章 金属元素 単体、化合物、イオンの性質を学ぶ 定期考査			○	○	1				
	第1章 有機化合物の分類と分析 分類と元素分析について学ぶ。			・教科書、自作プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 有機化合物の特徴と分類を理解する。 命名法、製法、特徴的な反応を理解する。 【思考・判断・表現】 有機化合物を分類し、構造式や示性式で表すことができる。 特徴的な反応を反応式で表すことができる。 異性体を区別できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習や質疑に積極的に取り組む。 課題やレポート作成に積極的に取り組む。	○		○	○	28
	第2章 脂肪族炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 第4章 芳香族化合物 構造、性質、反応性を理解する。					○		○		
第1章 高分子化合物の性質 定期考査	○	○	1							

3 学 期	第1章 高分子化合物の性質 分類、特徴、を学ぶ。 第2章 天然高分子化合物 第3章 合成高分子化合物 構造、性質、反応性（、合成法） を学ぶ。	・教科書、自作プリント ・一人1台端末の活用 等	【知識・技能】 高分子化合物の定義や分類、性質、構造を理解する。 【思考・判断・表現】 関係する反応式を書いて、量的計算を行うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 問題演習や質疑に積極的に取り組む。 課題やレポート作成に積極的に取り組む。	○	○	○	39
	定期考査			○	○		1
							合計

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 理科 科目 生物

教科：理科 科目：生物 単位数：4 単位

対象学年組：第3学年 7組～ 組

教科担当者：上野 精一

使用教科書：（生物 数研出版）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】科学が解明してきたことを理解し、その方法や意味を学ぶ。

【思考力、判断力、表現力等】論理的・科学的思考の仕方を知得すると共に人に伝える能力も高める。

【学びに向かう力、人間性等】本質を探究していく体験から主体的に学ぶ姿勢を育む。

科目 生物 の目標：生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物に関する知識の習得や知識の概念的な理解を目指し、実験操作の基本的な技術を習得する。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけていく。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組み、自ら学習を調整しようとする力を身につけていく。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1編 生物の進化 【知識及び技能】 進化について基本的な概念を知る 【思考力・判断力・表現力等】 進化の原因やかかる時間などについて考え、判断できるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 生物の系統について自らと関連付けて考えることができるようにする。	・指導事項について講義したのちに基本的内容を問題演習を通して理解する。 ・教材 プリント・教科書・ワーク ・一人1台端末の活用 等 プリントをTEAMSを介して生徒に配布し、生徒は一人1台端末上で書き込んだり保存したりする。	【知識・技能】 進化についての基本的な事項を知る 【思考・判断・表現】 進化の原因について考察し、どのくらいの時間が必要なのかを問題演習等も活用して判断する 【主体的に学習に取り組む態度】 生物の系統がどのようなものか自らの身体と比較して考えてみる。	○	○	○	13
	第2編 生命現象と物質 【知識及び技能】 生命現象に関わるタンパク質について理解し機能や構造を知る 【思考力・判断力・表現力等】 タンパク質について考察し、機能を発揮するために必要な条件について判断する 【学びに向かう力、人間性等】 呼吸・発酵・光合成などについて自らと結び付けて考えることができるようにする。	・指導事項について講義したのちに基本的内容を問題演習を通して理解する。 ・教材 プリント・教科書・ワーク ・一人1台端末の活用 等 プリントをTEAMSを介して生徒に配布し、生徒は一人1台端末上で書き込んだり保存したりする。	【知識・技能】 タンパク質の性質について基本的なことを知る 【思考・判断・表現】 タンパク質の機能について考えてみる 【主体的に学習に取り組む態度】 生命現象に欠かせない代謝系とATP等について自らと結び付けて考えることができるようにする。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
2 学 期	第3編 遺伝情報の発言と発生 【知識及び技能】 DNAの構造・機能・複製を知る 【思考力・判断力・表現力等】 遺伝子の発現とタンパク質について考察し、発現調節についての条件について判断する 【学びに向かう力、人間性等】 遺伝子を扱う技術について生命倫理を含めて考察してみる	・指導事項について講義したのちに基本的内容を問題演習を通して理解する。 ・教材 プリント・教科書・ワーク ・一人1台端末の活用 等 プリントをTEAMSを介して生徒に配布し、生徒は一人1台端末上で書き込んだり保存したりする。	【知識・技能】 DNAについて基本的なことを知る 【思考・判断・表現】 DNAの機能について考えてみる 【主体的に学習に取り組む態度】 生命現象の中心命題であるDNA-RNA-タンパク質について自らと結び付けて考えることができるようにする。	○	○	○	27
	定期考査			○	○		1
	第4編 生物の環境応答 【知識及び技能】 動物の反応と行動について知る 【思考力・判断力・表現力等】 生得的な行動や経験による行動が発生するまでの過程について考察する 【学びに向かう力、人間性等】 身近な現象が起こる仕組みについて考察しまとめてみる。	・指導事項について講義したのちに基本的内容を問題演習を通して理解する。 ・教材 プリント・教科書・ワーク ・一人1台端末の活用 等 プリントをTEAMSを介して生徒に配布し、生徒は一人1台端末上で書き込んだり保存したりする。	【知識・技能】 神経系や筋収縮等の仕組みについて知る 【思考・判断・表現】 中枢の情報の伝達や反応の発生について考察する 【主体的に学習に取り組む態度】 生徒が自分の身体を簡単な実験に取り組み考察する。	○	○	○	27
定期考査			○	○		1	
3 学 期	第4編 生物の環境応答(承前) 【知識及び技能】 植物の環境応答について知る 【思考力・判断力・表現力等】 植物の発芽や成長、花芽形成の調節について考察する 【学びに向かう力、人間性等】 身近な例から植物の環境応答について考察してみる	・指導事項について講義したのちに基本的内容を問題演習を通して理解する。 ・教材 プリント・教科書・ワーク ・一人1台端末の活用 等 プリントをTEAMSを介して生徒に配布し、生徒は一人1台端末上で書き込んだり保存したりする。	【知識・技能】 植物ホルモン等について知る 【思考・判断・表現】 環境応答の実際の例について知り利用されている例を考察する 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な例から環境応答の例を探し、調べてみる	○	○	○	27
	定期考査			○	○		1
	第5編 生体と環境 【知識及び技能】 生物を考える際に個体より大きいレベルである個体群・生物群集・生態系についてその性質や関係性について知る。 【思考力・判断力・表現力等】 個体間関係や種間関係について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記の考察に基づいて身近な例であるヒトについても考えてみる。	・指導事項について講義したのちに基本的内容を問題演習を通して理解する。 ・教材 プリント・教科書・ワーク ・一人1台端末の活用 等 プリントをTEAMSを介して生徒に配布し、生徒は一人1台端末上で書き込んだり保存したりする。	【知識・技能】 生態系についてはヒトも含めて知り、COP等のヒトによる活動についても基本的なことを知る 【思考・判断・表現】 個体間や種間関係性について考察する。 【主体的に学習に取り組む態度】 考察に基づきSDG's等も考えあわせて上で生徒自らの生き方なども振り返って考察してみる	○	○	○	27
定期考査			○	○		1	
						合計	140

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育

科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

1 組～ 7 組

使用教科書：（ なし ）

教科 保健体育

の目標： 心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する

【知識及び技能】

各種の運動の特性の応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目

体育

の目標： 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補強運動、受け身、投げ技を理解し正しく表現することができる ・スポーツテスト ・入水前の準備運動等の徹底、教師の指示を良く聞き、厳守すること確認させる。クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの基本的な泳法を身につけさせる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力しながら学習カードに記入し、課題を見つける <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力しながら積極的に取り組む 	<p>・指導項目</p> <p>からだづくり運動 水泳 スポーツテスト</p> <p>・教材 学習カード</p> <p>・一人1台端末の活用 端末を利用し動画の視聴を行う</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>提示した技を理解し表現することができる 正しい泳法で完泳することができる</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけ、学習カードに記入することができる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自ら積極的に考え発言できる 仲間と協力しながら意欲的に学習に取り組むことができる</p>	○	○	○	25
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい泳法で決められた距離を完泳する ・アンダー・オーバーハンドパス、サーブ、アタックなどの個人技を身に付ける。 ・インサイドキック、トゥキックなど個人技を身に付ける <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型、ゴール型のボールゲームの特性を理解する ・チームで課題を見つけ課題解決に向けて意見交換を行う <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補強運動、受け身、投げ技を身に付ける。 ・仲間と協力しながら積極的に取り組む ・積極的に用具の整備や片づけを行う 	<p>・指導事項</p> <p>水泳 サッカー バレーボール バスケットボール</p> <p>・教材 学習カード 小テスト</p> <p>・一人1台端末の活用 端末を利用し動画の視聴を行う</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>正しい泳法で完泳することができる アンダー・オーバーハンドパス、サーブ、アタックなどの個人技を身に付けることができるようにする</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を見つけ、学習カードに記入することができる <p>仲間と課題を見つけ、その解決に向け協力して行動することができる</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自ら積極的に考え発言できる 仲間と協力しながら意欲的に学習に取り組むことができる</p>	○	○	○	30
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰でも手軽に行える体力づくりの運動として、日常生活に活かせる方法を考える ・クリアー、スマッシュ、ヘアピンをグループごとに学習し、基本打を身に付けることができるようにする。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>学習した個人技能を基礎にして試合を中心に活動することにより、実践的に学習できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補強運動、受け身、投げ技（かかり練習・約束練習・自由練習）を学習させる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力しながら積極的に取り組む ・積極的に用具の整備や片づけを行う 	<p>・指導事項</p> <p>体育理論 バドミントン 持久走</p> <p>・教材 ワークシート 学習カード 記録カード 小テスト</p> <p>・一人1台端末の活用 端末を利用し動画の視聴を行う</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正しい走り方を身に付け、決められた距離を完走できる ・クリアー、スマッシュ、ヘアピンをグループごとに学習し、基本打を身に付けることができる ・ワークシートに正しく書くことができる <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と課題を見つけ、その解決に向け協力して行動することができる <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>自ら積極的に考え発言できる 仲間と協力しながら意欲的に学習に取り組むことができる</p>	○	○	○	15
						合計
						70

高等学校 令和7年度 (3学年用) 教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育

科目：生涯体育

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

1 組～ 7 組

使用教科書：(なし)

教科 保健体育

の目標：心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育成する

【知識及び技能】

各種の運動の特性の応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって自ら継続して運動に親しむとともに心身の健康の保持増進と体力の向上を目指し、豊かなスポーツライフを営むようにし、豊かで活力ある生活ができるようにする。

科目

体育

の目標：生涯にわたって自ら継続して運動に親しむとともに心身の健康の保持増進と体力の向上を目指し、豊かなスポーツライフを営むようにし、豊かで活力ある生活ができるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
【知識及び技能】 ・スポーツテスト ・入水前の準備運動等の徹底、教師の指示を良く聞き、厳守すること確認させる。クロール・平泳ぎの基本的な泳法を身に付けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・仲間と協力しながら学習カードに記入し、課題を見つける 【学びに向かう力、人間性等】 ・仲間と協力しながら積極的に取り組む	・指導項目 テニス バレーボール 水泳 ソフトボール ・教材 学習カード ・一人1台端末の活用 端末を利用し動画の視聴を行う	【知識・技能】 提示した技を理解し表現することができる 正しい泳法で完泳することができる 【思考・判断・表現】 ・課題を見つけ、学習カードに記入することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら積極的に考え発言できる 仲間と協力しながら意欲的に学習に取り組むことができる	○	○	○	20
【知識及び技能】 ・正しい泳法で決められた距離を完泳する ・アンダー・オーバーハンドパス、サーブ、アタックなどの個人技を身に付ける。 ・インサイドキック、トゥキックなど個人技を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】 ・ネット型、ゴール型のボールゲームの特性を理解する ・チームで課題を見つけ課題解決に向けて意見交換を行う ・補強運動、受け身、投げ技を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】 ・仲間と協力しながら積極的に取り組む ・積極的に用具の整備や片づけを行う	・指導事項 水泳 サッカー バレーボール バasketボール アルティメット ・教材 学習カード ・一人1台端末の活用 端末を利用し動画の視聴を行う	【知識・技能】 正しい泳法で完泳することができる アンダー・オーバーハンドパス、サーブ、アタックなどの個人技を身に付けることができるようにする 【思考・判断・表現】 ・課題を見つけ、学習カードに記入することができる 仲間と課題を見つけ、その解決に向け協力して行動することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら積極的に考え発言できる 仲間と協力しながら意欲的に学習に取り組むことができる	○	○	○	30
【知識及び技能】 ・誰でも手軽に行える体力づくりの運動として、日常生活に活かせる方法を考える ・クリアー、スマッシュ、ヘアピンをグループごとに学習し、基本打を身に付けることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 学習した個人技能を基礎にして試合を中心に活動することにより、実践的に学習できるようにする。 ・補強運動、受け身、投げ技(かかり練習・約束練習・自由練習)を学習させる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・仲間と協力しながら積極的に取り組む ・積極的に用具の整備や片づけを行う	・指導事項 体育理論 バドミントン 持久走 ・教材 ワークシート 学習カード 記録カード ・一人1台端末の活用 端末を利用し動画の視聴を行う	【知識・技能】 ・正しい走り方を身に付け、決められた距離を完走できる クリアー、スマッシュ、ヘアピンをグループごとに学習し、基本打を身に付けることができる ・ワークシートに正しく書くことができる 【思考・判断・表現】 ・仲間と課題を見つけ、その解決に向け協力して行動することができる 【主体的に学習に取り組む態度】 自ら積極的に考え発言できる 仲間と協力しながら意欲的に学習に取り組むことができる	○	○	○	20
合計						70

年間授業計画

高等学校 令和7年度(3学年用) 教科

外国語

科目

英語コミュニケーションⅢ

教科: 外国語

科目: 英語コミュニケーションⅢ

単位数: 4 単位

対象学年組: 第 1 学年

1 組 ~ 7 組

使用教科書: (第一学習社 Vivid English CommunicationⅢ)

教科 外国語

の目標:

【知識及び技能】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方やコミュニケーションをとるための知識・技能を習得する。

【思考力、判断力、表現力等】 外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を適切に結び付け、コミュニケーションをとれる思考力、判断力、表現力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 外国語によるコミュニケーションを積極的に取ろうとし、また、その能力を養おうと努力する。

科目 英語コミュニケーションⅢ

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を身に付けている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書						
1 学 期	Lesson1 渡辺直美さんの生き方について。 句読法、意味のまとまりについて理解することができる。 Lesson2 岡本太郎さんの『太陽の塔』制作時の思いとは。 指示語の指す内容について理解することができる。 Lesson3 黄金比はなぜ人を魅了するのか。 つなぎの語句(例示)を理解することができる。 Lesson4 ボルネオにあるオランウータンの学校について。つなぎの語句(原因・結果)について理解することができる。	左記の目標に書かれた内容を指導する。 また、教科書以外の副教材として、 ・Active Listening 3 ・英単語ターゲット1200 ・Pair&Share を使用して、英検に対応する力や語彙力を強化する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27
	定期考査		○	○		○	定期考査の点数	○	○		1	
	Lesson5 不老不死や長寿の実現は可能か。 つなぎの語句(対比・対照)を理解することができる。 Lesson6 本田圭佑選手の取り組みについて。 つなぎの語句(列挙)を理解することができる。 Lesson7 さかなクンの夢の実現について。 つなぎの語句(追加)について理解することができる。 Lesson8 「記憶の解凍」プロジェクトとは。 主題文と支持文について理解することができる。	左記の目標に書かれた内容を指導する。 また、教科書以外の副教材として、 ・Active Listening 3 ・英単語ターゲット1200 ・Pair&Share を使用して、英検に対応する力や語彙力を強化する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27
定期考査		○	○		○	定期考査の点数	○	○		1		
2 学 期	Lesson9 デジタルデトックスのすすめ。/ ウォーターフットプリントについて。 未知語の意味の推測について理解することができる。 Lesson10 宇宙ごみ問題の解決策とは。/ 異常気象の増加について。 事実と意見の区別について理解することができる。 Lesson11 No Rain, No Rainbow 車いすで世界一周を成し遂げた三代達也さんの生き方に迫る。 パラグラフ間の関係(時間的順序) 前の文・節・句全体を先行詞とする関係代名詞whichを理解する。	左記の目標に書かれた内容を指導する。 また、教科書以外の副教材として、 ・Active Listening 3 ・英単語ターゲット1200 ・Pair&Share を使用して、英検に対応する力や語彙力を強化する。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	27
	定期考査		○	○		○	定期考査の点数	○	○		1	

年間授業計画 様式

日本橋 高等学校 令和7年度 (3学年用) 教科 外国語 科目 論理・表現Ⅲ

教科： 外国語 科目： 論理・表現Ⅲ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方やコミュニケーションをとるための知識・技能を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】 外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を適切に結び付け、コミュニケーションをとれる思考力、判断力、表現力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語によるコミュニケーションを積極的に取ろうとし、また、その能力を養おうと努力する。

科目 論理・表現Ⅲ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
日常な話題や社会的な話題について、伝えるための表現や、さまざまな文法の意味や働きを理解する。	読み手を説得することができるよう、身近なものごとや社会的なできごとについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく書く技能を身に付ける。	読み手を説得することができるよう、身近なものごとや社会的なできごとについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく書くようにしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価基準	知	思	主	配 当 時 数	
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書						
Unit1 Lesson 1 Survey Results 調査結果を発表する 【知識及び技能】 アンケート結果にもとづき姉妹校に寄贈するマンガについて自分の提案を伝える。 【思考力、判断力、表現力等】 発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、自分の提案を効果的な理由や具体的な内容とともに詳しく書いたり、即興で詳しく伝え合ったりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を、複数の具体的なかつ効果的な理由とともに詳しく伝えようとする。	左記の目標に書かれた内容を指導する。また、生徒個人の活動に加え、ペアワークやグループワークを通じて、学んだ事項について書いたり発表したりする。 【文法項目】 動詞の種類	○		○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA、十分に達成していると考えられる場合はB、B未満はCとする。 この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。		○	○	○	3
Unit2 Situation 1 At the Airport 入国審査の際に必要な、多様な語句や文を身に付ける。	実際の場面に即し、暗唱して発表する。			○	○		実際に使う場面を想定し円滑にコミュニケーションを図ることができたか、ルーブリックに基づいて評価する。				○	1
Unit1 Lesson 2 Writing an Email メールを書く 【知識及び技能】 電子メールのやり取りを通じて、身近な情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく書く技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 読み手を説得することができるよう、身近な情報や自分の考え、気持ちなどを詳しく書く技能を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を、複数の具体的なかつ効果的な理由とともに詳しく伝えようとする。	左記の目標に書かれた内容を指導する。また、生徒個人の活動に加え、ペアワークやグループワークを通じて、学んだ事項について書いたり発表したりする。 【文法項目】 時制	○		○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA、十分に達成していると考えられる場合はB、B未満はCとする。 この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。		○	○	○	4
Unit2 Situation2 Homestay ホームステイに関し理解するために必要な知識を身に付ける。	実際の場面に即し、暗唱して発表する。	○			○	○	実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることができたか等を、ルーブリックに基づいて評価する。				○	2
1 学 期 Unit1 Lesson 3 Writing a Blog 【知識及び技能】 町の観光の現状や町を訪れる若い世代を増やすためのアイデアについて伝えるため、多様な語句や文を用いて、自分の提案を書く技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】 自分の町を訪れる若い世代を増やすアイデアについて、読み手を説得することができるよう、効果的な理由や具体的な内容とともに詳しく書く。 【主体的に学習に取り組む態度】 自分の意見を、複数の具体的なかつ効果的な理由とともに詳しく伝えようとする。	左記の目標に書かれた内容を指導する。また、生徒個人の活動に加え、ペアワークやグループワークを通じて、学んだ事項について書いたり発表したりする。 【文法項目】 助動詞	○		○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA、十分に達成していると考えられる場合はB、B未満はCとする。 この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。		○	○	○	4
Unit2 Situation 3 Gifts from Japan ホームステイの準備の際に必要な、多様な語句や文を身に付ける。	実際の場面に即し、暗唱して発表する。			○	○		実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることができたか等を、ルーブリックに基づいて評価する。				○	2
Unit1 Lesson 4 Describing Activities 活動を紹介する 【知識及び技能】 講義の内容をもとに環境を守る活動を紹介するための表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 環境を守る活動を紹介するため、自分の提案に多様な語句や文を効果的に用いる。 【主体的に学習に取り組む態度】 相手がよく理解できるように、効果的な理由や具体的な内容とともに詳しく紹介しようとする。	左記の目標に書かれた内容を指導する。また、生徒個人の活動に加え、ペアワークやグループワークを通じて、学んだ事項について書いたり発表したりする。 【文法項目】 不定詞・動名詞	○		○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA、十分に達成していると考えられる場合はB、B未満はCとする。 この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。		○	○	○	4
Unit2 Situation Situation 4 Lost Items 電話で落とし物の問い合わせをする。	実際の場面に即し、暗唱して発表する。			○	○		実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることができたか等を、ルーブリックに基づいて評価する。				○	2
定期考査		○				○					○	1
Special Activity ディスカッションをしよう	ルーブリックに基づきディスカッションする。			○	○		ディスカッションの目的や形式、進め方に則り、意見や主張を伝え、進行に貢献しているかどうかを評価する。				○	3

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語 科目 総合英語

教科： 外国語 科目： 総合英語 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 3 学年 必修選択
 使用教科書：（ 英語総合問題演習 Blossom 2 ）
 教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方やコミュニケーションをとるための知識・技能を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を適切に結び付け、コミュニケーションをとれる思考力、判断力、表現力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】外国語によるコミュニケーションを積極的に取ろうとし、また、その能力を養おうと努力する。

科目 総合英語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
4技能を生かした教材を通じ、表現方法を学びながら、語彙を増やす。外国人指導助手とのチームティーチングを生かしてコミュニケーションをとるための知識・技能を習得する。	多様な分野の観点から考察し、まとまった英語を用い論理の展開や表現の工夫をしながら、自分の考えを伝える態度を総合的に養う。	外国人指導助手とのチームティーチングを生かして英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			聞	読	話 （ や ）	話 （ 発 ）	書					
1 学 期	A 単元 Unit 1 There is～構文 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 構文を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる	左記の目標に書かれた内容を指導する。 語彙を増やすため、毎時間の単語テストで学習成果の確認を行う。 Writingの課題を課し、は票させる。	○	○	○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA,十分に達成していると考えられる場合はB,B未満はCとする。この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。	○	○	○	8
	B 単元 Unit 2 第4・5文型 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 文型を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる		○	○	○	○	○		○	○	○	8
	定期考査								○	○		1
	C 単元 Unit 3 時制 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 時制に気をつけて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる	左記の目標に書かれた内容を指導する。 語彙を増やすため、毎時間の単語テストで学習成果の確認を行う。 Writingの課題を課し、は票させる。	○	○	○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA,十分に達成していると考えられる場合はB,B未満はCとする。この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。	○	○	○	8
	D 単元 Unit 4 現在完了形 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 形に気をつけて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる		○	○	○	○	○		○	○	○	8
定期考査								○	○		1	
2 学 期	E 単元 Unit 5 過去完了形 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 形に気をつけて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる	左記の目標に書かれた内容を指導する。 語彙を増やすため、毎時間の単語テストで学習成果の確認を行う。 Writingの課題を課し、は票させる。	○	○	○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA,十分に達成していると考えられる場合はB,B未満はCとする。この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。	○	○	○	8
	F 単元 Unit 6 助動詞① 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる		○	○	○	○	○		○	○	○	8
	定期考査								○	○		1
	G 単元 Unit 7 助動詞② 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 助動詞に気をつけて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる	左記の目標に書かれた内容を指導する。 語彙を増やすため、毎時間の単語テストで学習成果の確認を行う。 Writingの課題を課し、は票させる。	○	○	○	○	○	単元の目標を高度に達成していると考えられる場合はA,十分に達成していると考えられる場合はB,B未満はCとする。この授業では、その単元で習う文法の理解度の他、その文法を使って自身や身の回りのことなどについて表現する力も評価する。そのため、その単元で習った文法を用いて実際に自身や身の回りのことについて作文をしたり、それを用いて実際に使う場面を想定しコミュニケーションを図ることも評価する。	○	○	○	8
	H 単元 Unit 8 受動態 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 受動態を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる		○	○	○	○	○		○	○	○	8
定期考査								○	○		1	

3 学 期	I 単元 Unit 9 不定詞 【知識及び技能】 使い方を理解できる 【思考力、判断力、表現力等】 不定詞を用いて表現できる 【学びに向かう力、人間性等】 積極的にペアワークに取り組むことができる	左記の目標に書かれた内容を指導する。 語彙を増やすため、毎時間の単語テストで学習成果の確認を行う。 Writingの課題を課し、は棄させる。	○	○	○	○	○	○ ○ ○ 2

年間授業計画

日本橋 高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語 科目 英語文法演習

教科： 外国語 科目： 英語文法演習 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： （ 演 ）

使用教科書： （ 『Next Stage[ネクステージ]英文法・語法問題 4th edition』 ）

教科 外国語 の目標：

- 【知識及び技能】外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方やコミュニケーションをとるための知識・技能を習得する。
- 【思考力、判断力、表現力等】外国語を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を適切に結び付け、コミュニケーションをとる思考力、判断力、表現力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】外国語によるコミュニケーションを積極的に取ろうとし、また、その能力を養おうと努力する。

科目 英語文法演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
英語によるコミュニケーションにおける日本語との違いや、相手に正しく伝わる英語、特に文法事項について理解し、その知識を活用してコミュニケーションをとる技能を身につけられる。	英語で読んだり聞いたりした内容に基づいて、相手に正しく伝わる英語、特に正しい文法を意識して、書いたり話したりすることができる。	英語でコミュニケーションを取ることに意欲を持ち、相手に正しく伝わる英語について興味・関心を持って学習に粘り強く取り組むことができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕						書
1 学 期 Part1 文法 第1章 時制 さまざまな時制の使い分け 第2章 態 能動態と受動態の違い 第3章 助動詞 各助動詞の使い分け 各文法事項について正しく理解し、その知識を活用してコミュニケーションをとることができる。 Part3 イディオム 第20章 頻出基本イディオム 第21章 動詞を含むイディオム イディオムを覚え、場面に応じて活用できる。 定期考査	左記の目標に書かれた内容を指導する。必要に応じて補助教材（『表現のための基礎英語構文ノート86』）を活用し、表現力を伸長させる。Part3については家庭学習を中心とし、毎回の小テストで学習成果の確認を行う。		○		○			○	○	○	8
			○		○			○	○	○	1
Part1 文法 第4章 仮定法 直説法と仮定法の違い 第5章 不定詞 不定詞の3用法を含むさまざまな用法上の注意点や使い分け 第6章 動名詞 動名詞の基本用法とその応用 各文法事項について正しく理解し、その知識を活用してコミュニケーションをとることができる。 Part3 イディオム 第22章 形容詞・副詞を含むイディオム 第23章 名詞を含むイディオム イディオムを覚え、場面に応じて活用できる。 定期考査	左記の目標に書かれた内容を指導する。必要に応じて補助教材（『表現のための基礎英語構文ノート86』）を活用し、表現力を伸長させる。Part3については家庭学習を中心とし、毎回の小テストで学習成果の確認を行う。		○		○			○	○	○	10
			○		○			○	○	○	1

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭 科目： 保育基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書：（ 実教出版 保育基礎 ）

教科 家庭 の目標：

- 【知識及び技能】基礎的なことについて理解しているとともにそれらによる技能を身につけている
- 【思考力、判断力、表現力等】生活の中から問題を見出して 課題を設定し 課題を解決する 力を身につけている
- 【学びに向かう力、人間性等】 共同し 自分や家庭 地域の生活の充実 向上を図るために実践しようとする

科目 保育基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている。	子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>1章 子どもの保育</p> <p>1節 保育の意義</p> <p>1 保育とは</p> <p>2 保育の意義</p> <p>・保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような点に気をつけていけばよいかなど、考察ができる。</p> <p>2節 保育の方法</p> <p>1 保育者の役割とは</p> <p>2 一人ひとりに合わせた指導</p> <p>発達時期の特性を考慮した保育の工夫が必要であることを理解している。</p> <p>3節 保育の環境</p> <p>1 家庭での保育</p> <p>2 幼児教育・保育の場</p> <p>3 子どもが育つ環境の変化と課題</p> <p>・子どもを取り巻く環境が子どもの発達に大きな影響を与えることを理解し、発達段階における発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。</p>	<p>・指導事項</p> <p>・保育の意義と重要性について、幼稚園教育要領や保育所保育指針を取り上げながら扱い、保育が人間形成にどのようにかわるかを考える。</p> <p>・保育者にはどのような資質が求められるか、またそれを身につけるにはどのようにしたらよいかなど、保育者観についての考察を深める。</p> <p>・家庭での保育の現状や、幼児教育・保育の場（幼稚園や保育所、認定こども園など）の保育環境の特徴や役割を理解する。</p> <p>・子どもを取り巻く社会環境の変化や今後の保育の課題について理解し、子どもの健やかな発達のために適切な保育環境について考察する。</p> <p>人間の発達に関心を持ち 乳幼児期が人間の発達の基礎を 培う 時期であることを理解する</p> <p>乳幼児期は親を中心とした 身近な人との関わりにより心が安定し 考え方感じ方行動の仕方などが発達していくことを理解する</p> <p>・教材</p> <p>教科書</p> <p>補助資料</p> <p>・一人1 端末の活用 等</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>乳幼児期は心やからだの基礎を築く大切な時期であることを十分に理解している。</p> <p>保育者に求められる役割や関わり方のポイントを十分理解している。</p> <p>子どもや家庭をとりまく保育環境やその課題について十分理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>教科書p.11Workで遊びを通じた子どもの心の振り返りを通して、子どもがどういったことを身につけていくかなど、乳幼児期の体験の重要性に気づくことができる。</p> <p>保育者としての子どもとの適切な関わり方について考察することができる。</p> <p>保育環境やその課題について、社会的背景などと関連づけて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>授業に積極的に取り組んでいる。</p> <p>小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。</p>	○	○	○	6
<p>2章 子どもの発達</p> <p>1節 子どもの発達の特性</p> <p>1 発達と保育</p> <p>2 発達の共通性と個性</p> <p>・胎児の生育環境である母体に対する関心と課題意識を高めている。乳幼児の身体的特徴と生理的特徴及びその変化に関する知識を身につけている。</p> <p>2節 子どものからだの発達</p> <p>1 発育・発達の評価</p> <p>2 身体的特徴</p> <p>3 生理的特徴</p> <p>・誕生から幼児期までの子どもの身体発育、運動機能、認知機能などそれぞれの発達の特性について理解している。</p> <p>3節 子どもの心の発達</p> <p>1 社会・情緒的な発達</p> <p>2 知的発達</p> <p>3 言葉の発達</p> <p>・心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係のひろがりについて考える。</p> <p>・知的発達、言葉の発達、社会性・情緒など様々な側面から、子どもの心の発達をとらえる。</p> <p>特集 月齢、年齢別の発育・発達</p> <p>・誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。</p>	<p>・指導事項</p> <p>・乳幼児期は人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。</p> <p>・乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。</p> <p>・誕生～乳児期・幼児期の発達の過程を、それぞれの月齢・年齢ごとの発達に沿った子どもの姿を通して理解する。</p> <p>乳幼児の生活の特徴学び健康を保持増進し順調な成長を促す上で発育発達に応じた養護が必要なることを理解する</p> <p>乳幼児期は、人の発育・発達において大切な時期であり、共通性や個性といった特性があることを理解する。子どもを取り巻く社会環境への変化や今後の保育への課題について理解し、子どものすこやかな発達のために適切な保育環境について考察する。</p> <p>乳幼児期の身体的特徴と生理的特徴をとらえ、新生児期～乳幼児期へと続く人の発達の過程を理解する。心の発達の土台として大切な愛着関係の形成過程について学び、親子関係の形成と人間関係の広がりについて考える。</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>子どもの発達は、運動や感覚、心の発達などが関連し合っており、その特性について十分理解している。</p> <p>子どもの身体の発達過程や生理的特徴について十分理解している。</p> <p>乳幼児期の愛着関係の形成は人の発達にとつととても重要であることを十分理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>愛着関係形成のための大人の適切な関わり方について考察ができています</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>授業に積極的に取り組んでいる。</p> <p>小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。</p>	○	○	○	18

3章 子どもの生活 1節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 ・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。 ・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 2節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的生活習慣 3 社会的生活習慣 ・子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 3節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置 ・子どもの健康状態を見るときポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ・子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。	・指導事項 ・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解する。 ・子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ・子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。 ・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 子どもの安全で健康的な食生活、衣生活に関する知識や技術を身につけている。基本的生活習慣と社会的生活習慣の形成のための適切な支援について十分理解している。子どもの健康管理と事故防止に対する基礎的な知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの食生活や衣生活などの特徴についてまとめることができる。子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法を考察することができる。子どもの健康管理と事故についてその予防策や注意点を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 離乳食や幼児食、おむつ交換などの実習について子どもの発達の状況などと関連づけて考え実践することができる。子どもの発達に即した適切な習慣形成の働きかけが保育実習などの場で実践しようとしている。子どもの事故の実態や原因を踏まえて事故防止や安全教育に結びつけて実践しようとしている。授業に積極的に取り組んでいる。小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	18
定期考査			○	○		1
2 学期 3章 子どもの生活 1節 子どもの生活と養護 1 生活と健康 2 栄養と食事 3 衣生活 ・子どもの生活に関心を持ち、主体的に子どもの生活を理解しようとしている。 ・子どもの食生活や衣生活について子どもの健康的な生活を支える保育の基礎的な技術を身につけている。 2節 生活習慣の形成 1 子どもの生活習慣 2 基本的生活習慣 3 社会的生活習慣 ・子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法について思考を深めている。 3節 健康管理と事故防止 1 子どもの健康管理 2 事故の防止と応急処置 ・子どもの健康状態を見るときポイントや病気の特徴、予防接種について理解している。 ・子どもにおこりやすい事故を予測し、その対策を考えることができる。	・指導事項 ・子どもが心身の健康を保つための保育の技術を身につける。 ・乳幼児期の栄養や食事(乳汁栄養や離乳食、幼児食など)の特徴を実習を通して理解する。 ・子どもの衣生活と育児用品について、身体特徴をふまえ、安全で快適に生活するために何が必要か選択できる。 ・子どもの健康管理や事故防止について、健康状態の観察のポイントや予防接種、事故の実態や原因などを理解する。 ・子どもの事故防止や安全な環境整備にはどのような配慮や準備が必要か具体的事例とあわせて理解する。 乳幼児の生活の特徴を学び健康を保持増進し順調な成長を促す上で発育発達に応じた養護が必要なことを理解する 乳幼児は遊びを通して発育発達することを理解し保育者が発達に合わせて遊びを働きかけることの大切さを学ぶ 基本的な生活習慣を身につけるためには家族や保育者の援助が必要であることを学ぶ。社会的生活習慣は社会のルールや人との関わりの中で身に付けていくことを理解する。日常の健康状態の観察など乳幼児の健康守るための保育者の役割を理解する。 ・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等	【知識及び技能】 子どもの安全で健康的な食生活、衣生活に関する知識や技術を身につけている。基本的生活習慣と社会的生活習慣の形成のための適切な支援について十分理解している。子どもの健康管理と事故防止に対する基礎的な知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】 子どもの食生活や衣生活などの特徴についてまとめることができる。子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法を考察することができる。子どもの健康管理と事故についてその予防策や注意点を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 離乳食や幼児食、おむつ交換などの実習について子どもの発達の状況などと関連づけて考え実践することができる。子どもの発達に即した適切な習慣形成の働きかけが保育実習などの場で実践しようとしている。子どもの事故の実態や原因を踏まえて事故防止や安全教育に結びつけて実践しようとしている。授業に積極的に取り組んでいる。小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。	○	○	○	10

	<p>4章 子どもの文化</p> <p>1節 子どもの文化の意義と支える場</p> <p>1 子どもの文化</p> <p>2 子どもの文化を支える場</p> <p>子どもの文化の意義を理解し、それらの役割や今後の課題について考察することができる。</p> <p>2節 子どもの遊びと表現活動</p> <p>1 遊びと発達</p> <p>2 遊びと表現活動”</p> <p>・遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。</p> <p>・子どもの発達や特性をふまえた上で、子どもの遊具等の作成に取り組み、子どもの遊びや表現活動に関連する技術を身につけている。</p>	<p>・指導事項</p> <p>・絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える場が、子どもの健やかな発達とどのような関わりを持つか、その意義について理解する。</p> <p>”・子どもの遊びと遊具や表現活動の意義や重要性などを、具体的に遊具等を作るなどの活動を通じて理解する。</p> <p>・遊びにおける保育者からの働きかけを考え、遊びの援助ができるようにする。”</p> <p>絵本や遊び、歌などの児童文化財や児童館などの子どもの文化を支える立場が、子供の健やかな発達とどのようなかかわりを持つか、その意義について考える。</p> <p>遊びにおける保育者からの働きかけを「考え、遊びの援助ができるようにする。実際にこどもとふれあう機会や保育の様子を観察などを通じて、子どものものの見方や感じ方、子どもと適切なかかわりかたなど、保育への理解を深める。</p> <p>・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>児童文化活動、児童文化財、児童文化施設など子どもの文化を支える場やその意義について十分理解している。</p> <p>遊びの意義や発達との関わり、遊具の選び方などについて十分理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>教科書p.111Workの自分の子どものころの遊びの振り返りについて、周りの人と話し合いながら遊びへの理解を深めている。</p> <p>子どもの遊び実習に向けて、必要な準備や関わり方の工夫などについて考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>子どもの遊び実習（絵本や歌など）について、子どもの年齢や発達に応じた遊び方や工夫を主体的に考えて実践することができる。</p> <p>授業に積極的に取り組んでいる。</p> <p>小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。</p>	○	○	○	8
定期考査				○	○		1
3 学 期	<p>5章 子どもの福祉</p> <p>1節 子ども観</p> <p>1 子ども観の変遷</p> <p>2 権利の主体としての子どもへ</p> <p>2節 子どもの福祉</p> <p>1 児童福祉</p> <p>2 子どもをとりまく課題と対策</p> <p>3 子どもが育つ社会環境”</p> <p>3節 子育て支援</p> <p>1 子育て支援からパートナーシップへ</p> <p>2 社会的養護</p> <p>3 地域の子育て支援</p>	<p>指導項目・内容</p> <p>・子ども観の変遷や、権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。</p> <p>・児童福祉の基本的な考え方について理解し、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。</p> <p>”・児童虐待の現状と対策について自分の考えを述べている。</p> <p>・子育ての現状をふまえて、これからの子育て支援を考えている。</p> <p>児童福祉の理念や法律制度について学び単に保育するのみではなく時代を担う児童の健全育成を目的としていることを理解する</p> <p>児童相談所などの児童福祉機関や施設の種類と目的を学び児童と家庭に対する社会的援助についての理解する</p> <p>児童を取り巻く環境の変化や子育て支援の現状を知り 子育て家庭に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解する</p> <p>子育て支援の課題と展望を考える</p> <p>・教材 教科書 補助資料 ・一人1台端末の活用 等</p>	<p>【知識及び技能】</p> <p>児童館の変遷について、社会的背景や西欧と日本の比較などを通じて十分理解している。</p> <p>児童憲章や子どもの権利条約など児童福祉の基本的な考え方について十分理解している。</p> <p>子どもの福祉を支える公的機関や施設役割について十分理解している。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>子どもの福祉の課題を見つけ、その解決に向けて考察することができる。</p> <p>児童虐待の現状や課題について自分の考えをまとめることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>授業に積極的に取り組んでいる。</p> <p>小テスト、出欠状況、提出物、忘れ物等総合的に判断し評価する。</p>	○	○	○	7
定期考査				○	○		1
							合計 70